

第62回中学生海の絵画コンクール(九州・山口地区中学生対象)

【公益社団法人 九州海事広報協会】

審査員 綿引 昭子 (新世紀美術協会 会員)
松浦 孝 (門司港美術工芸研究所 所長)

講 評

この度は、海の絵画コンクールにご応募いただき、誠にありがとうございました。

応募数は昨年度より大幅に減少しましたが、それを補う新たな感動が作品全体から広がりました。前年とは異なる「新しい感覚」を持つ作品が多く非常に新鮮で、出品数が減っても全体のレベルの高さは維持されており、力作や個性的な色彩感覚が目を引きました。

海の絵画において、流動的な波の表現は重要です。

前年度までは、技法的に完成された「型」のような表現が上位入賞を独占する傾向がありましたが、今年度は制作者が「自身で観察した海」に基づく独自の表現方法を探究しているのが見て取れ、大変興味深く拝見しました。真摯な観察と豊かな感性から生まれる、型にはまらない表現の豊かさを改めて感じました。

栄えある金賞作品(石井 結菜さん「静かな港」)は、丹念な海面描写と荘厳な山を背景に、そこに息づく人間の営みとしての舟が描かれ、自然への深い敬意と調和を表現しています。

作者の率直で静謐な筆致は、日本人が古来より海や山に抱いてきた畏敬の念や神聖さへと繋がる、感動的な素晴らしい作品でした。

最後に、応募者の皆さんの海への深い眼差しと表現力に心から感謝いたします。

今回のコンクールが、皆さんの今後の制作活動のきっかけとなれば幸いです。絵を描く楽しさを忘れず、自分だけの表現を探し続けてください。

令和七年七月二十一日

審査員 松浦 孝 (門司港美術工芸研究所 所長)